

mps 東京大学大学院工学系研究科 都市持続再生学コース
Master's Program in Sustainable Urban Regeneration

東大まちづくり大学院

2011年度コース案内

Urban Engineering
Civil Engineering
Architecture

contents

目次

東大まちづくり大学院で学ぼう.....	1
教員紹介.....	2
カリキュラム.....	4
第四期生座談会.....	6
修了要件と学位.....	8
入学試験.....	9



東大まちづくり大学院で学ぼう

(工学系研究科 都市工学専攻 都市持続再生学コース 社会人向け修士課程)

社会人のためのまちづくり大学院

東大まちづくり大学院（都市持続再生学コース）は、社会人向けの大学院修士課程で、東京大学大学院工学系研究科の都市工学専攻、社会基盤学専攻、建築学専攻の3専攻がサポートします。まちづくりに関連する広い分野の実務経験者を対象に、総合的な教育を行い、まちづくりの現場において中心となって活躍する高度な知識をもった専門家の養成することを目的としており、国内に類例のないプログラムです。

学生像は、自治体都市計画関係職員・政府機関職員、不動産・建設・その他関連企業都市開発担当者、まちづくりNPOメンバー、まちづくりに関心をもつ社会人など多岐にわたると想定されており、実際に在校生は年齢20代から60代まで、出身大学は北海道から九州まで、職場も自治体あり、民間企業ありと多彩であり、留学生もともに学んでいます。

人口減少、国際化、情報化等が進行する中で大きく変わる都市社会やまちづくりに、最新の知識と深い思考で立ち向かうために、ぜひ「東大まちづくり大学院」で学んでください。

特 徴

■在職したままで修了可能

夜間・土曜日の受講により在勤のまま所定の単位を修得することが可能です。

入学時に長期履修学生制度を申請すれば、同額学費で修学年限を3年または4年に延長することも可能です。

■横断的な教育プログラム・充実した講師陣

東京大学大学院工学系研究科の3専攻の協力体制のもと横断的な教育プログラムを展開します（学生の所属は都市工学専攻）。そのほか、関連省庁、自治体のまちづくり担当者、他大学の教員、民間企業の実務担当者などが講師となります。

■産学官の連携

本コースの中に、不動産関係5社、建設関係5社、エネルギー関係2社、鉄道関係1社、住宅関係1社の合計14社の協力で、寄付講座（都市持続再生学寄付講座 Laboratory for Urban Sustainable and Renaissance Studies）が開設され教育・研究に当たっています。

また、国土交通省、独立行政法人UR都市機構の協力により、2名の教授がコースでの教育・研究に当たっています。

■教育プログラムの特色

実践に必要な理論、知識、技法・技術を学ぶための文理融合型講義内容です。

持続可能な環境都市づくり、少子高齢化時代のまちづくり、美しい街並みづくり、協働のまちづくりなどの現代的な都市再生課題を取り上げます。広範囲な基礎知識を講義で身につけ、理論や技法・技術の応用・活用方法については、演習で理解を深めるという段階的な教育プログラムを採用しています。

仕上げは、個別指導による修士論文のための研究で行います。

dean of the school of engineering

Prof. Takehiko Kitamori



■工学系研究科長 北森武彦 教授

工学系研究科では、時代や社会の要請に応じて多様なプログラムが提供できるように努力しています。国際化を進める中では、英語を共通語とした外国人留学生を受け入れるコース、高度な専門家を養成するコース、さらに社会人を対象として実務のより深い理解と創造的発展を目指した、この「都市持続再生学コース」等です。社会の第一線にある専門家が、さらに東大の修士課程で研鑽を積むことで、市民にとって暮らしやすく、また低炭素化など時代をリードするまちが創られることを期待します。

chairs of the departments concerned

Prof. Takashi Onishi



■都市工学専攻長・コース長 大西 隆 教授

専門分野：国土・地域計画、開発途上国都市論、テレワーク論

東大まちづくり大学院は4年前に発足し、すでに多くの修士を輩出し、在学生在が学んでいます。それらの方々には、現職でさらに充実した仕事を続けたり、仕事を移り、新たな舞台で活躍したり、それぞれ充実した活動をしているように見受けられます。仕事と両立させながら、講義を受け、修士研究を行う努力には敬服します。論文で取り上げたテーマを見ると、かねて温めてきたテーマをじっくりと研究したことを感じさせるのは当然ですが、住民参加とまちづくり、環境とまちづくり等、現在の課題にも鋭く切り込んだものが目立ちます。こうした先端的研究を通じて、現代社会におけるまちづくりに役に立つ発想、知識と技法を身につけ、応用していける人材が、さらに多数輩出されることを期待しています。

Prof. Takeshi Ishihara



■社会基盤学専攻長 石原 孟 教授

専門分野：風工学、構造物の動力学、自然エネルギー利用学

現代都市が抱えている様々な問題をまちづくりを通じて解決していくことが期待されています。持続可能な都市開発や地域社会の活性化などを実現していくためには、住民と行政または民間事業者が一体となって、ハードとソフトの両面から課題の解決を図ることが不可欠であり、多岐にわたる知識が必要とされます。本コースでは三つの専攻から幅広い分野の知識・ノウハウを提供し、よりよい生活基盤をつくり、自然環境にも調和したまちづくりをめざすとともに、皆さんが直面されている様々な問題を一緒に考え、その解決策を見つけていくことを期待しています。

Prof. Kotaro Hirate



■建築学専攻長

平手小太郎 教授

専門分野：建築環境学、建築光環境・視環境、建築環境心理・生理学

人々にとって良いまちづくりを行うためには、多くの叡智を結集し議論を積み重ねなければなりません。社会人として、現場でのまちづくりの問題に直面している皆さんは、高い問題意識をもって学び、深い議論をすることができるはずです。大学院とは、単に知識を習得する場ではなく、皆で共に学び高めあっていく場だと考えています。私たちも皆さんと一緒に学び、良きまちづくりを実現させるために努力したいと思っています。



■都市工学専攻

浅見 泰司	教授	居住システム、都市住宅学、空間情報解析
安藤 尚一	教授	都市計画制度論、サステナブル建築政策、国際防災
石川 幹子	教授	環境デザイン、都市緑地計画、ランドスケープ・デザイン
大方潤一郎	教授	土地利用計画、市街地整備手法
大森 宣暁	准教授	都市交通計画、交通システム分析
窪田 亜矢	准教授	都市デザイン、空間計画設計
小出 治	教授	都市防災論
小泉 秀樹	准教授	住環境計画、まちづくり論、参加型都市計画
貞廣 幸雄	准教授	地理情報システム、都市空間解析、最適施設配置
城所 哲夫	准教授	国際都市地域計画、開発途上国都市計画
多田 宏行	特任教授	民間都市開発論、不動産投資と証券化
西村 幸夫	教授	都市デザイン論、都市保全計画
花木 啓祐	教授	地球環境工学、都市環境保全、都市物質フロー解析
羽藤 英二	准教授	都市生活学、ネットワーク行動学、都市マーケティング論
原田 昇	教授	都市交通計画、都市交通論
古米 弘明	教授	水質環境保全、都市雨水管理、下水道
山田 常圭	特任教授	都市防災論、都市防災計画、消防防災支援システム
ほか、都市工学専攻教員		

■先端科学技術研究センター

遠藤 薫	教授	市街地再開発事業を中心とした都市再生事業、住宅問題、住宅地整備
------	----	---------------------------------

■社会基盤学専攻

家田 仁	教授	国土・都市・交通に関わる計画と政策
加藤 浩徳	准教授	交通計画、交通政策、交通行動分析
ほか、社会基盤学専攻教員		

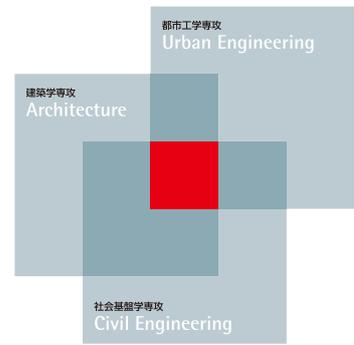
■建築学専攻

伊藤 毅	教授	都市史・建築史
隈 研吾	教授	建築家、都市・建築デザイン
ほか、建築学専攻教員		

■非常勤講師(予定を含む)

明石 達生	国土交通省国土技術総合政策研究所	都市計画研究室室長
秋山 哲男	元首都大学東京都市環境学部	教授
和泉 洋人	内閣官房地域活性化統合事務局	事務局長
大野 輝之	東京都環境局長	
加藤 孝明	東京大学生産技術研究所	准教授
河北 秀也	東京藝術大学美術学部	教授
亀卦川幸浩	明星大学理工学部	准教授
小林 光	慶應義塾大学環境情報学部	教授
西郷真理子	(株)まちづくりカンパニー・シーブネットワーク	代表
鈴木 伸治	横浜市立大学国際総合科学部	准教授
須永 和久	(株)計画技術研究所	代表取締役
園田真理子	明治大学理工学部	教授
田所 創	兵庫県産業労働部長	
中野 恒明	芝浦工業大学システム理工学部環境システム学科	教授
棚野 良明	国土交通省都市・地域整備局公園緑地・景観課	緑地環境室長
似田貝香門	東京大学	名誉教授
野口 秀行	ノースアジア大学経済学部	教授
信時 正人	横浜市地球温暖化対策事業本部	本部長
登坂 誠	(株)日建設計 開発計画部門国際PM室	主管
浜野 保樹	東京大学新領域創成科学研究科	教授
半田真理子	(財)都市緑化技術開発機構 都市緑化技術研究所	所長
本保 芳明	首都大学東京都市環境科学研究科	教授
増田 寛也	元総務大臣／(株)野村総合研究所	顧問
松行美帆子	横浜国立大学大学院工学研究院	准教授
廻 洋子	淑徳大学国際コミュニケーション学部	教授
森 まゆみ	作家	
森反 章夫	東京経済大学	教授
山下 英也	(株)SEEDS環境計画研究所	計画部長

教育プログラムの特色



充実したコースワーク

従来の研究重視型大学院教育とは異なり、実践に必要となる広範な理論、技法・技術を獲得するため、文理融合型の充実したコースワークを用意しています。

現代的都市再生課題に焦点をあてた段階的な教育プログラム

美しい街並みづくり、少子高齢化時代のまちづくり、持続可能な環境都市づくり、協働のまちづくり、といった現代的な都市再生課題を講義の主題に捉え、これら課題に取り組む際に実際に役立つ理論、知識、技法・技術を身につけ、必要とされる企画構想力・調整能力を養います。

段階的な教育プログラム

異なる講義形式を用いた段階的な教育プログラムにより、効率的に受講生の能力を高めます。広範にわたる基礎知識を座学型講義で身につけ、都市再生実務における理論や技法・技術の応用・活用方法についてはケースメソッドで理解を深めます。そして、実務実践型講義では身につけた知識を活かすために必要となる構想・調整能力を養います。

		1年 冬学期	
講義 (選択) 火・水・木・金 (6限、7限)	都市空間政策 各1単位半学期	都市空間計画概論 ●空間計画基礎 ●まちづくり基礎論	●持続可能な都市圏域形成と広域計画 ●都市成長管理と「まちなか空間の再生」
		都市の交通政策 ●空間交通政策概論 ●交通バリアフリー論	●公共交通と都市開発 ●交通まちづくり
		都市情報の分析 ●都市数理・GIS基礎 ●予測・評価手法の基礎	●都市情報分析 ●都市交通と生活行動の分析
		都市と環境 ●都市環境概論 ●都市と水環境	
		安全安心のまちづくり ●都市の安全(防災)とまちづくり ●都市の安心とまちづくり	
	都市経営基礎 各2単位 (1学期)	都市開発のマネジメント論 都市計画・まちづくりの制度 都市社会論	
	都市経営戦略 各2単位 (1学期)	都市の文化政策・観光論	
演習	各3単位 (1学期) (必修) 全6単位 土曜3-5限	少子高齢化・人口減少時代の都市再生	まちづくり条例 都市住宅プロジェクト
研究	各2単位 (1学期) (必修) 全4単位 随時		

■特別講義(随時開催) ■他コース、他専攻講義(平日昼間開催・自由選択)

■講義

都市空間政策 (選択:1単位/半学期)

都市の空間計画、交通政策、環境政策、安全・安心、都市福祉政策、都市のガバナンスといった広範な領域について、充実した講師陣による最先端の講義によって、現代の都市づくり・まちづくりに必要な知識を獲得します。

都市経営基礎 (選択:各2単位/1学期)

都市の空間と文化、都市社会論、都市行財政論といった講義群により、都市づくり・まちづくりに必要とされる社会科学系の基礎知識を体系的に獲得します。

都市経営戦略 (選択:各2単位/1学期)

都市と住宅・不動産開発、都市の産業と経営戦略、都市の文化・観光政策といった講義群により、都市経営や都市政策の立案に必要とされる、より実践的な知識を獲得します。

■特別講義

省庁担当官等による都市関係制度・事業、自治体による先駆的試み、最新の都市開発事例、海外の著名研究者による講義、海外都市計画大学院との相互交流演習等を予定しています。

■演習

まちづくりプロジェクト演習 (必修:3単位/1学期 全6単位)

美しい街並みづくり、少子高齢化時代のまちづくり、持続可能な環境都市づくり、協働のまちづくりの4つの主要課題を対象に、都市再生の第一線で活躍する専門家(非常勤講師を含む)による実践的指導のもと、政策・手法・戦略・事業の企画構想・提案を行います。演習では、ケースメソッド方式の講義を踏まえつつ構想・提案を行います。

■研究

都市持続再生学特別演習 (修士研究 必修:2単位/1学期 全4単位)

学生の実務・関心に直結した研究を2年次より行います。

講義：平日夜 火・水・木・金

6限：18：30～19：50、7限：19：55～21：15

演習：土曜日 3-5限：13：00～18：10

研究：随時

1年 夏学期		2年 冬学期	2年 夏学期
●少子高齢化・人口減少時代の住宅地のデザインとマネジメント	●歴史を活かしたまちづくり	●公共政策としてのアーバンデザイン	●まちづくり活動と支援制度
●都市景観の分析と都市シミュレーション	●都市情報システム		
●都市と大気・熱環境	●環境リスク・廃棄物マネジメント		
都市環境デザイン	●環境デザイン論 ●都市再生と環境デザイン	インフラと建築からみた都市	●都市交通とインフラ整備の意志決定論
環境共生型都市論	●環境共生型都市の理論 ●環境共生型都市の実践	●住宅政策と住宅地計画	
		●エコロジカル・プランニング ●サステイナブルな都市環境	
		都市地域政策の構想と展開	
		●首長はいかに政策を着想し展開するのか	
都市と住宅事業論			
都市産業と経営戦略			
美しい景観とまちなみ	都市再生と環境とデザイン 協働のまちづくり		
		修士論文研究	
			修士論文研究

*シラバスは東大まちづくり大学院のサイト (<http://www.due.t.u-tokyo.ac.jp/mps/curriculum.html>) をご覧ください。

東大まちづくり大学院 第四期生座談会

社会人として東大まちづくり大学院で学ぶことを決意し、入学した皆さんが多忙な中、仕事や生活と大学院を両立させつつ、どのように充実した日々を送っているのか。2010年10月に入学した第四期生全員による自由な語らいから東大まちづくり大学院ならではの魅力ある学生生活をお伝えします。

座談会出席者 上村氏 (30代、男性、鉄道) / 井上氏 (30代、男性、鉄道) / 桂氏 (30代、男性、地方自治体) / 趙氏 (20代、女性、研究機関) / 勝部氏 (40代、男性、エネルギー) / 坪井氏 (50代、男性、電気メーカー) / 野末氏 (20代、女性、建設業) / 渡辺(雅)氏 (20代、男性、不動産業) / 渡邊(秀)氏 (50代、男性、建築設計事務所) / 加藤氏 (20代、女性、財団法人) / 江島氏 (40代、男性、設計事務所) / 稲葉氏 (30代、女性、地方自治体) / 矢内氏 (20代、男性、建設業) / 新井氏 (30代、女性、地方自治体) / 星合氏 (40代、男性、建築設計) / 辻氏 (50代女性、翻訳業) / 齊藤氏 (40代、男性、地方自治体) / 若松氏 (60代、男性、建築設計事務所) / 武田氏 (30代男性、地方自治体)

■平日 普段の授業について

齋藤：「まちづくり論」の授業とか、聞くだけでなく 討議するのが、刺激がありますね。いろんな社会経験を積んでいる皆さんの重みのある発言が聞けるのが良いですね。

若松：素晴らしいプログラム内容で、最先端の情報を雨のようにいただき、わいわいと論議していくことはなかなかできない体験だと思いますし、とても恵まれていると思います。

野末：「都市情報分析」の授業が好きですね。分析やシミュレーションで柔軟性のある理想の都市をつくることも夢ではないのかなって感じた衝撃の授業でした。入学してみると、予想していた内容と全く違う授業があってワクワクします。実務利用の面でも可能性を感じます。

武田：好きな講義は意外に「都市と環境」ですね。先生が学問を愛してるのがビシビシ伝わってきます。下水とか水とか

マニアックですけど、先生の情熱で一気に興味が湧きました。

星合：時間が許せば昼間の講義もとれますよ。私は都市工学科と建築学科の科目をとって、若い院生と一緒に学んでいます。比べてみると、まちづくり大学院の授業は昼の講義とは違った緊張感がありますね。鋭い質問が飛び交いますから(笑)。

矢内：皆さん集中的に授業に出られて、かなりスケジュール的にタイトだと思うんですけど。モチベーションはどうですか。

渡邊(秀)：僕の場合、たまたま今仕事でやってることと殆どどっかに接点があるんで、ちょっと身が乗り出る。

上村：仕事と全く関係ない話も新鮮で、聴いてて楽しいですね。

■異論反論 金曜7限 都市社会論!

坪井：工学系の授業の中で唯一文系の「都市社会論」は興味深いですが、専門用語等で戸惑いはありませんか?

桂：僕は、やっぱり金曜7限の「都市社会論」が好きですね。

趙：私は、まだ日本語を100%理解するのが難しいです。資料さえあればわかるんですが、資料をみてもわからないのがこの授業です。もっと一生懸命やらなきゃと思ったんですが、やってもわからなくて。家に帰ってやけ飲みしました(笑)。

坪井：全然違うジャンルじゃないですか。思考のパターンや用語が全然違う。そういう意味で理解するのが大変。例えば「コモンズ」とか。最近、品川駅で降りた所に「コモンズ」って書いてあって、ああ、これか! と。

渡邊(秀)：わからないことがメッセージだと思ってんです。ここから先は、あなたたち、考えなさいって言うような。でも言語が違うから僕たちには理解できない。僕も3割から4割くらい。それをどう受け止めるかなんですよね。こうして議論が起きるってことは良い授業なんですよ。

稲葉：3回目までは非常にづらい授業でした。授業を聞いても、資料を読んでも、理解するのが大変で。でも、皆さんの質問によって理解が深まってきたのか、今ではとても楽しい。最近はわからないことが面白いと思っています。

桂：「小さい公共」という住民参加の話が授業で出てきた時に行政だけでやっているものを小さい公共、行政が市民と組んでやっているものを大きい公共、と一瞬勝手に思って面白い概念だなと…。勘違いだったんですけど(笑)。見えそうで見えないモヤモヤした部分が見えてきたら面白い。

辻：市民サイドからまちづくりに関わってきたので、あの授業はよくわかるんです。ソフト面でのまちづくりをやってる人はいつもああいう話をしてるんですよ。「公共」とか、「コモンズ」とか。この大学院に入ってソフトとハードのまちづくりに関わっている人達の言語がものすごく違うということを感じました。まちづくりでは、こんなに言葉の違う多くの人達をどう結びつけていくのかが、とても大きな課題ですよ。その結びつける役割を担う人達がこの大学院から育っていくのになって。今後は楽しみです。



■ 演習での街歩き(左)
■ 演習の発表(中)
■ 議論と作業(右)





■ 第四期生のプロフィール

人数：19名(留学生1名、休学中1名含) 年齢：25～61歳(平均39歳) 性別：男性13名、女性6名
職業：地方自治体、財団法人、研究機関、鉄道、エネルギー、建築設計、不動産、建設業、電気メーカー、翻訳
出身学部：：工、理工、農、造形、文、法、学芸、都市工学、社会工学、美術、外国語、人類学

■ メイン・ディッシュ 土曜演習について

上村：演習の授業はやっぱり面白いですね。いろんなバック・グラウンドの人のいろんな持ち味が出て。

渡邊(秀)：仕事の時は徹夜して次の朝提出なんてのはつらいんですけど、演習とかレポートとかは楽しいんですね。

渡邊(雅)：最初の八王子市街地活性化演習も、次の銀座と浦安の条例演習も、実際に市役所の方が来られて、アドバイスや情報をいただきながら進めるので、非常に実践的ですよね。

矢内：実際の仕事では地域の合意形成とかに関わる機会はないんですが、これだけ多様な皆さんと演習でチームをつ

くるので、そういった話題がポンポン出てくるんですね。逆に、チーム内の合意形成がその分難しいっていうか(笑)。

加藤：合意形成は難しいけれど、いろんな意見をぶつけ合っていくのは楽しいし、知らないことを教えてもらえたりするのも勉強になります。一緒に取り組む時間の密度が濃いから、八王子演習の最後に、打ち上げと称してチームのみんなと八王子市役所の方も一緒に子どもたちを連れて高尾山に登りましたよ。知り合って一か月そこそこののに。ありえない!

■ 学びの森 東大の環境について

星合：食堂にはひと通り行きました。一番のお勧めは農学部奥のアブルボア。こんなにおしゃれな場所があるのかと驚きます。

齋藤：安田講堂での秋の入学式、良い経験でした。普段は入れないですし、祝辞から答辞まで全編英語で、さすが東大ならではの感じですね。

勝部：「御殿下(ごてんした)記念館」っていう運動施設があるん

ですけど、土曜日の朝ちょっと寄りたりしてんです。「頭

の健康」を授業で、「体の健康」は「御殿下」で。(笑)

井上：住まいが大学から近いので、週末に時間の取れた時には自転車で総合図書館に行って勉強したりしています。

星合：秋のキャンパスは、イチョウやケヤキの紅葉に抱かれて息

をのむほど美しいですね。

■ 放課後・仲間・リアルライフ

江島：頭の子の健康の話が出たんですけど、良いらしいんですね。どうも肌つやが良くなってほしい。周りの人にもいろいろと影響が出ているみたいで、実は受験したいという話があったり。それから息子が頑張り始めたんですね。6歳なんですけどやる気まんまんで。東大以外は行かないって。

渡邊(雅)：「放課後」っていうのができてみんなと一緒に喋りながら帰るっていうのが、すごい新鮮ですね。僕も肌つやが良くなりましたね。(笑)

稲葉：授業に来るのが楽しいので、私も肌つやが良くなってきましたが、帰宅すると疲れて体力の低下を実感します。でも、

みんな頑張っているんで、私も気合を入れています。

新井：私も10月の入学から自宅—職場—東大の間をひたすら走り続けていますよ。

武田：1時間以上かけて来るのでほんとに疲れちゃって。先週は風呂に入ってた、寝ちゃったみたいで溺れそうになりました。四期生年齢トップ4は、本当にすごいなあ、と。

若松：それへの弁明ですが(笑)、私は比較的、自分の自由な時間がとれる体制になってるから助かってますね。皆さんの方が大変だと思っています。

■ 受験を考えている方へ

渡邊(雅)：去年のコース案内に文学部出身で門外漢だけど受験した、という経験談があって。僕もそうなんです。門外漢の方でも積極的に受けてほしいと思います。

趙：韓国では、都市工学科を卒業した人が都市工学の大学院に行くことは多いんですが、建築の人が都市工学の大学院に行くことも多くなっています。それと比較すると、まちづくり大学院では不動産とか建築、それだけではなく、もっと幅広くいろいろ分野の方がいらっしゃるので、とても勉強になります。

上村：受験する時、自信がなかったんです。学業と仕事の両立も不安でしたし、かなり迷ってました。ただ当時、大河ドラマの龍馬伝を見て「志あるなら実行せよ」というシーンがあったんです。それを見て「受けなきゃ!」という気になります。(笑) 今は、受けて良かったな、と。最初に開講式で大西先生から「人生変わるよ」というお言葉をいただいたんですが、正にそうだと実感しています。



修了要件と学位

requirements for graduation

- 所定の 30 単位を修得し、修士論文を提出して合格すること。
学位：修士（工学）



■ 長期履修学生制度

職業を有しているなどの事情により、標準修業年限では、大学院の教育課程を履修することが困難であると認められる者に限り、標準修業年限を超えた計画的な履修年限を設定することができる制度です。

修士課程での標準履修年限である2年間で、3年または4年に延長して、計画的に履修することができます。

この制度では、標準履修年限の授業料の総額を長期履修期間として認められた年数で支払うことになります。たとえば、修士課程において、3年の長期履修が認められた場合、1年間に支払うべき授業料(年額)は、2年分の授業料(通常年額×2)の総額を3(3年間)で除した額となります。

入学試験

entrance examination

■出願資格(次の①及び②を満たす者)

- ①大学を卒業した者(詳しくは、学生募集要項を参照してください)
- ②出願時までには都市の計画・デザイン・マネジメント・整備・保全、あるいはさまざまなまちづくり活動に関わる分野で、社会人として2年以上の実務経験を有する者。(ただし、出願時までにはまちづくり関連の大学院を修了している場合、上記の各分野の社会人として、1年の実務経験とみなす。)

■平成23年度入学試験日程

学生募集要項・入学志望者案内配布	開始日	4月1日(金)
説明会		4月18日(月) 18:30~
本郷キャンパス 工学部14号館141講義室		
出願時期	5月17日(火)~5月27日(金)	
入学試験	6月25日(土)	
合格者発表	7月8日(金)	
入学手続期間	9月21日(水)~9月22日(木)	
入 学	10月1日(土)	

※学生募集要項・入学志望者案内の入手方法については、
東大まちづくり大学院のサイトでご確認ください。

■入学試験の内容

筆記試験(英語、専門科目、小論文)、口述試験

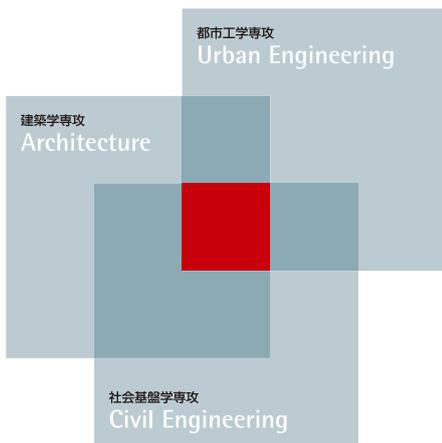
- ※上記の記述(出願資格・入学試験日程・入学試験の内容)は、いずれも予定です。
入試試験の詳細については、必ず「学生募集要項」、「入学志望者案内」でご確認ください。
- ※入試過去問題の販売については東大まちづくり大学院のサイトをご覧ください。

■平成22年度入試結果

募集人員：12名 志願者数：41名
合格者数：19名 入学者数：19名 倍率：2.2倍 ※外国人特別選抜を含む

■学費

入学科：282,000円(予定額)
授業料：年額 535,800円(予定額)



■お問い合わせ先

〒113-8656 東京都文京区本郷7-3-1

東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻事務室内 東大まちづくり大学院デスク

TEL:03-5841-8362 FAX:03-5841-0370

E-mail office@mps.t.u-tokyo.ac.jp URL <http://www.due.t.u-tokyo.ac.jp/mps>